

第6回 観光交流拠点づくり推進委員会 会議録

日時 平成26年9月22日（月） 19時～20時50分

場所 羽咋市役所 2階 203会議室

出席者

委員：林 一夫（羽咋市商工会副会長）
川井 康子（観光ボランティアガイドこんちま羽咋副会長）
清水 篤郎（羽咋市観光協会宿泊委員会委員長）
中田 昌宏（羽咋青年会議所事務局長）
松村 克行：羽咋市町会長連合会理事
金田 純一（千里浜財産区管理会会長）
淡路 幸子（能越ケーブルネット営業部）
浅野 由美子（公募委員）
西東 恒信（公募委員）
欠席（栗木委員）

オブザーバー：藤本 康司（石川県土木部道路建設課担当課長）
浅村 精一（石川県中能登土木総合事務所次長）

アドバイザー：濱 博一（石川県地域づくり協会専任コーディネータ）

市側出席者：備後 克則（企画財政課長）
川口 哲治（商工観光課長）
山本 裕一（商工観光課課長補佐）
松田 義人（商工観光課係長）
木村 貴志（地域整備課技師）

コンサルタント：(株)日本海コンサルタント3人
会議傍聴者：なし

審議事項

1. 開会
2. 委員長あいさつ
（略）
3. 千里浜観光交流拠点づくり基本構想（案）について
事務局説明 「目次項目1～4」について（略：別添会議資料参照）

【委員】

・ P 8、自転車道や遊歩道への通路となると千里浜インターの横断歩道がある。もう一つはユーフォリアの矢印があるところに隧道がある。歩道を通るよりも、安全確保の面からも隧道を歩いていける方がいい。

【事務局】

・ P 8については、遊歩道や補完道路の整備について検討する必要があるものも記載されている。委員会の皆さんの意見でも、周辺施設を面的に連携を図るといった意見があったものを落としたものである。実際にいつ整備をするのかというのではなく、今後、皆さんの意見で出たものを踏まえて検討していくためのものである。例えば、ユーフォリア千里浜から里山海道を抜ける道があるが、これは委員会では意見が出ていなかったが、千里浜海岸と交流拠点施設を一体感を持たせることや安全に通れる道が必要と考えている。植林されている松林を通ればいいのかも含め、検討する余地があると考えている。

・ このように全てやっていきますというものではない。面的な整備を考えたうえで、海岸線に出られる道を模索していきたいという思いで図面に落とし込んでいる。

【委員】

・ 委員会として最終的な提言になるので、詳細なことを話します。松林散策スペースとユーフォリアは現在連携がない。ユーフォリアの連携とユーフォリアを回らなくてもいい隧道があればいい。遊歩道との連携という点でも、このスペースを有効活用できると思う。

【委員長】

・ 松林の散策と明記されている。植林されているが、このスペースを散策することも可能なのではないか。(ハイヒールでは無理だが...)

【委員】

・ 現在は、松林の散策スペースは通れないので、何か通れる方法が必要。歩道を通してユーフォリアへ行く必要もない。

【委員長】

・ 構想なので、委員からこのような発言があったことを受けて事務局に一任するということでよろしいか。

【オブザーバー】

・ P 1の第5次総合計画が上位計画であるとの説明があったが、何年度に誰が作ったものか。

【事務局】

・市の10か年計画として、平成23年3月に作ったものである。観光振興ビジョンも同時期に作られたもの。

【オブザーバー】

・施設のコンセプトは少し長く、単純に羽咋らしさがないように感じる。

【委員】

・場所の設定については話し合われてきた。土地の利用については、有償なのか無償なのか。その点について、皆さんの頭の中に入れておいてもらいたい。住民から質問があった際に返事のしようがない。

【委員長】

・以前の委員会では、賃借するかを今後検討が必要ということ saying it like that.

【委員】

・1年目はいくらで、2年目からいくらという話ではなくてもいいのだが、皆さんの共通理解としておいてほしい。

【事務局】

・何回目かの委員会で、取得または賃貸でという話をした。この委員会で、具体的にする内容ではない。

【委員】

・そのような話がなかったというのではなく、皆さんの共通認識としてほしい。

【事務局】

・委員さんからそのような意見があったことを会議録に掲載する。
・案の段階であるが、今度は違うステージで、皆さんの意見を実現するために、どのように進めていけばいいかという課題がたくさんあると思う。
・場所の問題については、財産区の土地の利用ということもある。経済的な対応について、市は当然考えていかなければならない。皆さんからこのような意見があったことは当然記録するし、事務局としてもしっかりと受け止める。

【委員長】

・コンセプトについて、羽咋らしさがないのではないかとの意見があったが、広い意味でのコンセプトということで、羽咋らしさというものを落とすのは難しい。その後の文1つ1つに「羽咋」という言葉が入っている。

【事務局】

・事務局でまとめたわけであるが、皆さんから出していただいた意見を全体的にまとめると、どうしても弱い印象となる。「羽咋」という言葉を抜かすと、どこにでもあるようなものになる。

・ただし、コンセプトはざっくりとしたものとし、後段の機能などで羽咋らしさとしての具体性を持たせている。

・コンセプトについては、皆さんの意見をいただき手直しをしていきたい。

【オブザーバー】

・この基本構想（案）は、具体的に公表されるものか。

【事務局】

・そうである。

【オブザーバー】

・P 8は、4回目の委員会に出てきた意見を踏まえて、レストハウスまでの海岸線で道路整備するとの落とし込みと思われるが、対外的に掲載することの是非について。保安林などの制約がある場所のことである。整備するという形で出してしまうのは慎重に考えるべき。

【委員】

・レストハウスを含めた面的な整備や回遊性を持たせるといった点での交通網整備という思いで話を出した記憶がある。一体的に整備する視点としては納得が得やすいと考える。

【オブザーバー】

・当然対外的に出すということであれば、市がかなり汗をかかないといけない話である。

・それぞれに管理している部署があるので、そのような部署への根回しも必要である。

【委員長】

・この委員会は、実施計画というのではなく、構想としての意見を聴取していくというものである。先ほど事務局から説明があったように、これからいろいろな検討課題がある。

- ・構想としての意見を落とし込んでいると理解願いたい。

【事務局】

- ・委員長のおっしゃるとおり、委員会での構想であり、「このように実施をします」というものではなく、「このようなことができたらいいい」という形のものであると理解願いたい。
- ・委員会からの意見をもとに、落とし込んだというものであり、羽咋市がすぐに実施するというものではない。

【委員】

- ・ここだけで終わるものであれば問題ないが、この図面を一般市民が見たら、こう実現するんだと思ってしまう。但し書きをしたところで、混乱を招く恐れがある。こうだったらいいなというものは書かない方がいいのではないか。

【委員長】

- ・委員の皆さんから意見を反映させた構想ということである。今後、市長に答申をして、議会にもかけていくということになる。
- ・今後、実施計画として行政側に検討いただくための構想と考えていただきたい。

【委員】

- ・通過拠点という話があったが、ここへ立ち寄れば全ての情報が得られるという情報収集が必要であり、いかにその情報を提供できるかが必要。金沢と同じことをしてはいけない。能登入口で情報提供できる拠点づくりという考え方が必要。

【委員長】

- ・道の駅は全国にもたくさんあるので、個性や特徴がないと立ち寄ってもらえない。

【委員】

- ・松林散策スペースとの記載がある。この土地は、千里浜がいろいろな団体に申請して現在の松林になっている。この松林を維持するのに、年間何十万円も使っている。松林散策スペースと表記することで、今後、市としてどのように維持していくのか。将来的にこの管理は市がするのか。以降も、千里浜町会が維持するのか。

【委員】

- ・この土地は財産区の管理地であるので、管理は市ではなく、財産区による管理になる。(賃料が入れば、その管理に回せる...)
- ・この土地も計画に入れるとなると、経費の面もどうするのかも検討が必要。

【事務局】

・今後、町会や財産区とも話をしていかなければいけないと考えている。面的な整備が必要であるとの意見を踏まえ、折角花壇の整備なども施され、きれいになった場所でもあるので、地域の方や訪問客も利用できないものかと考え、このスペースを描いている。

【委員】

・単に施設で情報を得て、美味しいものを食べて、帰ってしまうのではいけない。
・出浜の方には、海岸部に出る隧道があり、周辺を散策できる。
・施設整備をきっかけに、海側にも散策できる遊歩道を整備するべきと考える。子どもたちが自然に触れ合ういい機会を提供できる。

【委員】

・遊歩道は出浜のところまでは行っていない。

【委員】

・健康にいいということも述べているので、これを機会に、チップなどを敷いて歩きやすいように整備すべき。
・新たに、海岸部に道路ができたらいいなとも思う。総合的に「こうなったらいいな」という図面だと思うが、自分から見ても、このように整備されることを望む。
・季節に応じて、訪問者が長く利用できるようなエリアになればいいと思う。

【委員長】

・遊歩道の管理主体はどうなっているか。

【事務局】

・遊歩道を明記されているが、中能登農林事務所が管轄する保安林を管理する作業道である。現在も、散歩する方もいる。しっかり整備をすれば、いい散策コースになると考える。

【委員】

・道路整備 800mという表記は、新たに道路を作ることでもいいか。

【事務局】

・現在、今浜の方で保安林を作業道として車が通れるようになっている。海岸が荒れて通れないときに、通れる道が整備されている。
・海岸とのと里山海道の間の保安林の海側に、今浜のような道が整備できればいいと考えているものである。

【委員長】

- ・護岸の上に道を付けるとなると許認可の関係がある。
- ・これは、「あったらいいな」という思いを落とし込んであるものと理解願いたい。

【委員】

- ・波が高いときには、それを乗り越えてゴミがたくさん上がっている。海岸のごみ拾いするより、上の部分のゴミが増えている。
- ・そこに道を作ったら、ゴミが上がってくるし、波に洗われることになるのでは。
- ・「あったらいいな」という意味合いで、道路整備の話が出たのだと思う。

【委員】

- ・中身については、概ねいいと考えるが、以前の委員会でも言ったが、道の駅そのものは経済的に自立しているものが望まれる。そのような文言が見当たらないので、記載いただきたい。
- ・この場では突っ込み過ぎの話になるかもしれないが、道の駅で重要なのは、6次産業化という部分である。加工するという部分が抜け落ちてしまうといけない。
- ・施設整備以上に、加工の部分をどうするかということが大変な作業になってくると思う。6次産業化できないと、道の駅で売るのがなくなり、利益が上がらず、経済的自立が成しえない。並行して、しっかり検討いただきたい。
- ・青年会議所や観光協会としても協力していきたい。

【委員長】

- ・具体的には、P16の課題の部分で、収益性のことや加工体制についても触れられている。

【アドバイザー】

- ・P8のような出し方をすると議論が集中することになる。
- ・P8のタイトルと中身に描かれていることが違う。タイトル通りに位置図であれば、候補地の赤囲みが載っていればそれでいい。あえて周辺の資源を残すのであれば、現存するものだけを描くべきである。
- ・中身を優先するのであれば、位置図及び周辺資源活用図という表記にすべきであり、P15とP16の間に入れるべき。
- ・青い道路整備の帯が描かれているが、このような表記であるとやるんだという感覚を与えてしまう。点線での表記にすべきであり、「道路整備 800m」もいかにも土木用語なので、「交流機能の強化検討」などとすべきである。
- ・これからやるかもしれない構想として挙げるものは、「～の有効活用の検討」「～の整備検討」など動詞で終わらせる方がいい。

- ・ 凡例では、同色を使って（例えば全て黄色にする）統一することが望ましい。
- ・ 各委員さんから出された誤解も解消できるのではないか。
- ・ 千里浜インターでの渋滞があって、地元住民は困っているとの発言があり、常時左折可の検討の話が出ていたので、委員会での発言を挙げるのであれば、その点も明記すべきである。

【事務局】

- ・ 作り方を修正し、誤解を生まないような工夫をしたい。

事務局説明 「目次項目 5 ～ 7 について（略：別添会議資料参照）」

【委員】

- ・ P 11 の松林に沈む夕日の写真が、血の海のような。時間的にももう少し早い夕日に差し替えたい。
- ・ P 13（2）で、国道 249 号と 415 号のほかに、159 号があるので掲載願う。

【委員長】

- ・ 159 号沿いにも観光施設である永光寺や豊財院がある。

【事務局】

- ・ P 13 の 159 号は重要な道路なので追記する。
- ・ P 11 の写真についても検討する。時間的に早いものに。

【オブザーバー】

- ・ P 9 基本機能にプラス「羽咋らしさ」があるとのイメージになっているが、P 10 以降の作り込みでは、「羽咋らしさ」が休憩の中に取り込まれてしまっている。「羽咋らしさ」が埋もれてしまっている。別建てで掲載するのが望ましいのではないか。うまくリンクした形で落とし込みしてほしい。

【事務局】

- ・ P 9 と P 11 の「羽咋らしさ」のリンクがうまくいっていないということによるしいか。
- ・ 休憩や情報発信、地域連携全てに「羽咋らしさ」を反映するとの意味で落とし込んだ。

【委員】

・ P11 の(4)に「羽咋らしさ」と書いてしまうのでややこしいことになっているので、施設の演出とだけ書けばそれでいい。この箇所は、施設の演出面のこと書いている箇所である。後の地域連携で、いろいろと「羽咋らしさ」のことを書いているので、タイトルの付け方の問題である。

【委員】

・ その部分を省略すると羽咋市の観光の魅力などが消えてしまうのではないか。

【アドバイザー】

- ・ オブザーバーからのご指摘のとおり。P5とP9がつながっていない。
- ・ コンセプトと機能が泣き別れをしてしまうと分かりにくくなるので、これらは一気通貫になっていないといけない。P9の図はP3のコピーである。つまり、国交省が出している道の駅とは何ぞやというものを示しているだけ。
- ・ 「魅力発信」は「情報発信」と、「活力創出」は「地域連携」と、「つながりの場」は「休憩」と、リンクしているものであると理解できる。三角形と逆三角形となっており、また、色もリンクしていない。この点を気をつけて図を描かないとうまくつながらないものになってしまい、意見があっちこっちに行ってしまう。
- ・ P9にそれぞれの「魅力発信」「活力創出」「つながりの場」という言葉を入れる。
- ・ 下欄の「羽咋らしさ(魅力創出)」ではない。
- ・ 「情報発信」と「地域連携」の重なった部分には、委員さんからご指摘のあった「観光資源」が入る。この部分でP8の赤い部分が表す市内への波及効果を生み出すものとなる。
- ・ 「休憩」と「地域連携」が重なった部分は、「地ものカフェ」のような機能が入る。
- ・ 「休憩」と「情報発信」が重なった部分は、「体験や演出」の機能が入る。
- ・ このようにすることで提言書としての全体のまとまりが良くなる。項目的にはこれで問題はないと思う。
- ・ 「情報発信」の部分には「能登の玄関口」を入れ、P13にも能登の玄関口としての情報発信拠点としての機能を追記すべきである。
- ・ 「地域連携」の部分には「GIHAS」や「ブランド化」などを入れる。
- ・ P10、13、14のタイトル部分にも、それぞれ「魅力発信」「活力創出」「つながりの場」を入れると、全てのつながりが生まれ、分かりやすくなる。

【委員長】

・ 事務局の方で、分かりやすく表記の工夫をお願いしたい。

【オブザーバー】

- ・P5 が目的で、P9 が機能であるので、P9 をやることで P5 につながるように表記すべき。
- ・防災機能については、東日本大震災の際に、道の駅が大いに役立ったということもあり、トイレなどのどこまで機能を入れるかは、その他とのバランスもあるので今後検討していただければと思う。
- ・外国人に対する対応についてはいかがか。実際に外国人は多く訪れているのか。Wi-Fi が書いてあるので、パンフレットなどの英字表記などの対応も、新幹線が開通したら必要になると思う。外国人への対応についても落とし込んであれば、先進的な取り組みとして評価されるのではないか。

【委員】

- ・この路面は冠水することもあるので、施設自体を高めに設置することも考慮すべき。

【委員】

- ・P16 の6の「できるだけ多くの地元住民が関わることのできる」というのは、どのような意味か。

【事務局】

- ・委員会でもいろいろな意見が出た。地元の観光関係団体や商工関係団体の方が関われるもの。住民でも応援したい方が関われるような仕組みが必要との意見があったことを受けて記載したものである。
- ・委員会でも、このような組織がベストであるとの明確な意見は出されていないが、羽咋の道の駅としては、羽咋全体として市民やいろいろな関係団体が関わり、バックアップしていくことを望むとのご意見を反映している。

【委員長】

- ・5回目の委員会で、ある委員さんが「できるだけ市民が愛着を持ち、多く関われる機会を持つことができる」との発言を受けて落とし込んだものと解釈している。
- ・出資のことも含めて、地域連携の重要性を述べたものである。

【委員】

- ・「道の駅運営委員会」というような運営に物申す機関として第三者委員会のようなものを置くということを念頭に置いているのか。

【事務局】

- ・どう運営していくのかというのが、道の駅の成否がかかってくるということであった。運営ノウハウを持った団体であり、羽咋市のことをよく知っている団体、6次産業化につな

げていく団体ということを考えなければならない。

【委員】

・なぜそのようなことを言うかという、ユーフォリア千里浜にはそのような委員会などの機関がない。町会としてどのような影響力を与えているかと質問されても、まったく影響力を持っていないと答えるしかない。地元住民や利用する市民の方々が不平を持っていても反映させる手段がない。道の駅も同じようなことにならないことを望む。

【委員】

・ユーフォリアには、何年か前まで運営審議委員会のようなものがあつたが、いつの間にか解消してしまった。放任状態なることを危惧するとの意見である。

【事務局】

・P16の表記については、単に民間事業者に委託するということを述べているのではなく、住民が関われる組織がより望ましいとの趣旨で記載しているものである。
・羽咋市としても、そのような考えで進めていく必要があると考えている。

【委員】

・運営について、不特定多数というか、あまりに多くの人や団体の方々が介入すると、収益施設としては、やりにくいのではないかと考える。
・もし、指定管理者制度を採用するとなると、何年かごとに切り替え（更新）の時期があるので、そのタイミングで、その事業者の結果を見て審議していただくことが望ましいと考える。

【委員長】

・ユーフォリアの場合は、市民の健康増進施設として地元の人々の意見を踏まえてきたという経緯もあるが、「道の駅」の場合は採算を重視した施設でもあり、行政側もできるだけ負担のかからない運営が望まれ、逆に、その収益から納入金を納めてもらうくらいの運営が望まれる。
・先の委員さんのご指摘のように、船頭があまりに多いと運営が難しくなるということも考えられる。人のつながりが大切であり、地域のことを熟知し、地域を良くしたいと考える人がいるのかどうかという点も大変重要なポイントである。どのような組織がいいのかについて、今後検討いただきたい。

【委員】

・加工の面について、別プロジェクトで何か組織を立ち上げるという考えはあるか。

【事務局】

- ・道の駅はいわゆる物販施設であり、実際何を売のかという視点であるが、羽咋の特産品、羽咋のブランド化という表現をしているが、農林サイドでそのような動きがある。
- ・地方創生という考えを国が8月に示した。国の地方経済対策として6次産業化をはじめ、地域経済活動を支援しようとする動きがある。
- ・現在、農林サイドで、羽咋の1次産品を2次化し、3次化の段階で道の駅のような施設とリンクさせ、相乗効果を高めていきたいと考えている。

【オブザーバー】

- ・基本構想を市民の皆さんにどのように見せるかということが大事。

【オブザーバー】

- ・基本構想を提言し、できるところを検討していくことになるが、整備スケジュールはどのような考えか。

【事務局】

- ・議会や関係団体、地元の方々への説明を実施しながら、今年度中により具体的な基本計画として、施設の大きさや配置、動線についてまとめる。
- ・ハード面と並行して、運営主体や商品提供、指定管理者の選定についても同時に考えていかなければならない。
- ・来年度の設計、再来年度に建設というスケジュールで進めていきたいと考えている。
- ・基本設計が出た際には、パブリックコメントも取りながら進めていく。

4 市長への提言について

【事務局】

- ・皆さんにお集まりいただき、市長に提言いただくということも考えられるが、通常は、委員長、副委員長により提言をいただければよろしいかと考えている。
- ・皆さんからいただいたご意見を踏まえ、今週中に手直しをし、文書でご確認いただく形で進めたい。来週中には提言できるように進めたい。

【委員長】

- ・委員長と副委員長により、市長へ提言してよろしいか。(異議なし)

【事務局】

・ 6月2日に1回目が始まり、4か月が経過した。その間、ほとんどの方に出席をいただき、貴重なご意見をいただいた。今回は、まだまだ訂正はされるが、印象に残っているのは、単なる観光交流拠点としての施設ではない。千里浜は、のと里山海道が無料化となり、観光地として多くの資源に恵まれ大変ポテンシャルの高い地域であるが、市民がそこに作って良かったと思え、また、地域住民の方々が参加しているという意識を持つべきであるという点が、心に残る提言となっている。

・ 地域経済が衰退し、先行きが見えない状況の中で、今回、国の地方創生の動きもある。その受け皿になり得る施設ではないかと考えている。

・ しっかりと、羽咋で生産したものを、加工し、この施設で売っていくという羽咋の中で循環し、羽咋のパワーを伝えていくような道の駅になることが望まれる。当然「羽咋らしさ」がないと通り過ぎていくので、皆さんからも多く知恵を出していただいた。

・ 今後は、関係団体や関係機関、地域の皆さんに説明し、理解をいただきながら進めるといふ説明力が市に求められていく。皆さんの意向を背負って、一步でも実現に近づけるようにまい進したい。

・ 4か月間に渡る皆さんのご協力に対し、深く感謝申し上げます。

【委員長あいさつ】

・ 6月から始まった6回に渡る委員会に、皆さんの出席に感謝申し上げます。

・ 仕事をお持ちの方や主婦の方、いろいろな方がいらっしゃる。

・ 事前に資料配布されたものを熱心に読んだうえで、委員会に臨んでいただき、素晴らしい意見をいただいた。市民としての見方は大変大切である。一方では、経営的観点でのご意見もいただき、構想を取りまとめることができた。皆さんのご努力に感謝申し上げます。

・ オブザーバーの方々も、日中の仕事を終わられてから羽咋までお越しいただきありがとうございます。今後の手続きもあるので、県の方々にもご支援いただければと思う。

・ アドバイザーの濱先生には、広い見識の中から、いろいろな観点で委員会を引っ張っていただき感謝申し上げます。委員においては、道の駅の情報について不足する面があり、いろいろなご助言をいただき重ねて感謝申し上げます。

・ 行政においても、実施に向けて努力いただけるものと期待している。